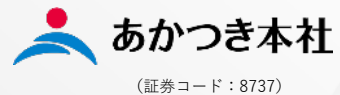


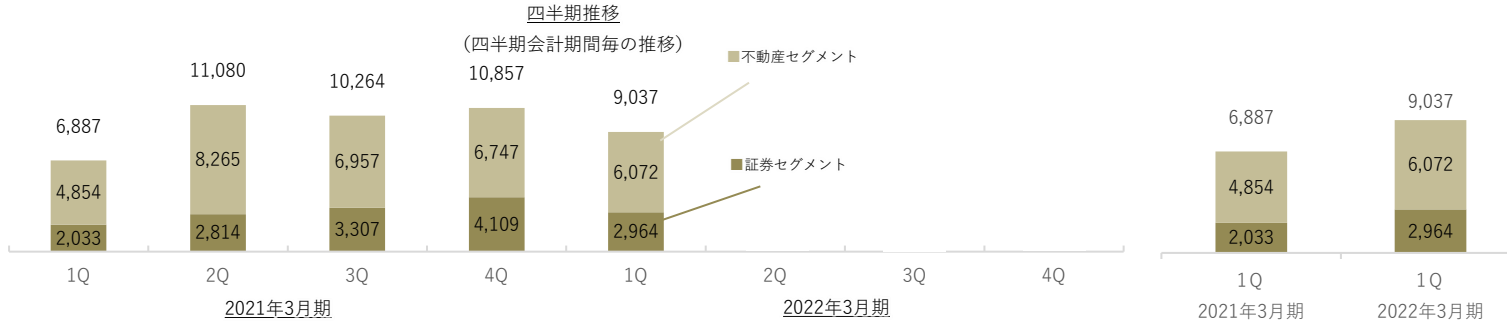
決算説明資料 2022年3月期第1四半期

2021年8月13日



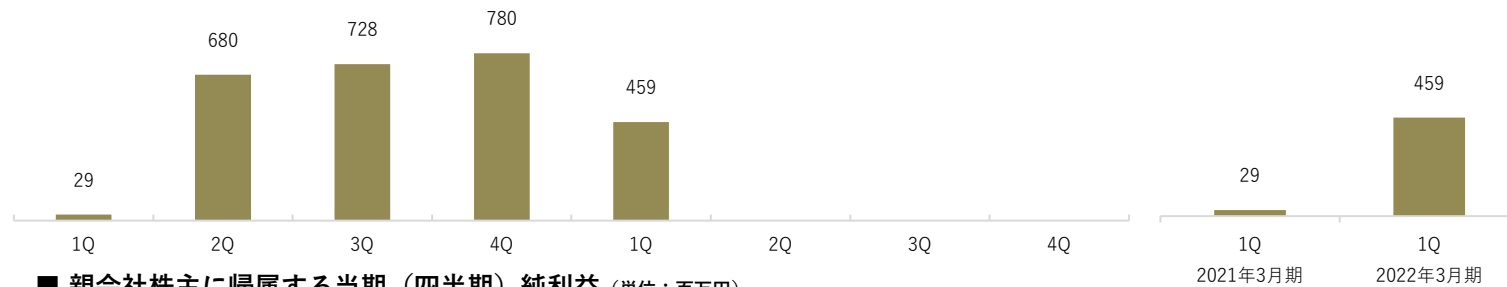
1-①. 連結PL < 当期・前期 >

■ 営業収益 連結消去後 (単位: 百万円) (外部顧客に対するもの)



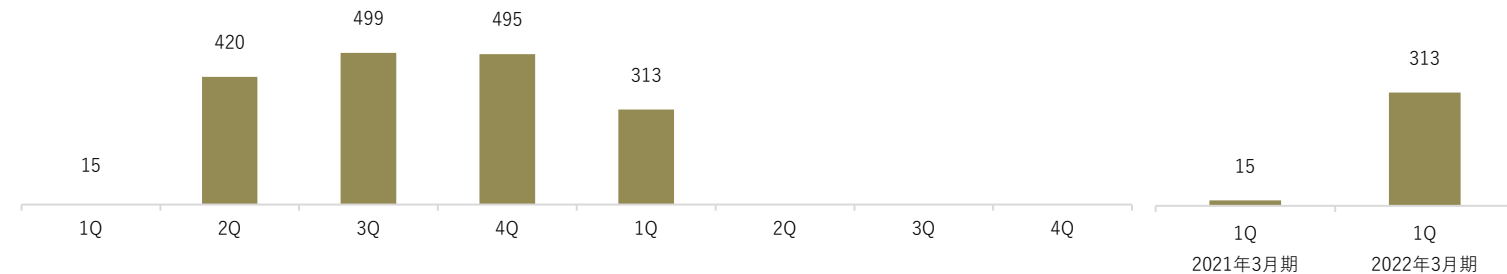
営業収益
31.2%増
(前年同期比)

■ 経常利益 (単位: 百万円)



経常利益
1,465%増
(前年同期比)

■ 親会社株主に帰属する当期 (四半期) 純利益 (単位: 百万円)



親会社株主利益
1,986%増
(前年同期比)

1-②. セグメント情報 < 営業利益 >

- ▶ 連結営業利益は363.3%増の523百万円。
- ▶ 証券セグメントは、IFA（金融商品仲介）ビジネスを中心に営業収益が拡大した一方、基盤となる預り資産拡大のための販促活動強化や業務拡大に備えた要員確保など政策的な費用の増加により、営業利益は4.2%減の193百万円。
- ▶ 不動産セグメントは中古マンションの買取再販ビジネスにおいて、前年同期がコロナ禍の活動自粛に伴い減少した反動もあり増収増益となり、営業利益は179.5%増の636百万円（のれん償却額は含まない）。



*1 不動産セグメントに含まれるのれん償却額は「のれん償却」として別掲表示

*2 本社(持株会社)費用は上場維持・グループ管理などの経費

*3 セグメント間取引は主に子会社からの事務所転貸に伴う賃貸料収入、当社及びあかつき証券との社債関連手数料の消去

2. 連結BS

- ▶ 総資産は6,699百万円増加
 - 現預金+2,503百万円、預託金（証券）+1,665百万円、販売用不動産+1,002百万円
- ▶ 負債は6,691百万円増加
 - 預り金（主に証券）+4,410百万円、短期借入金*+1,999百万円、信用取引借入金-1,218百万円
- ▶ 純資産は7百万円増加
 - 自己株式+16百万円、利益剰余金-8百万円

	2021年 3月31日	2021年 6月30日	増減
流動資産	55,551	61,273	+5,722
現預金	16,432	18,936	+2,503
預託金	14,214	15,879	+1,665
販売用不動産	19,333	20,335	+1,002
固定資産	6,109	7,086	+976
のれん	1,560	1,506	-53
投資有価証券	2,058	2,972	+913
総資産	61,660	68,359	+6,699

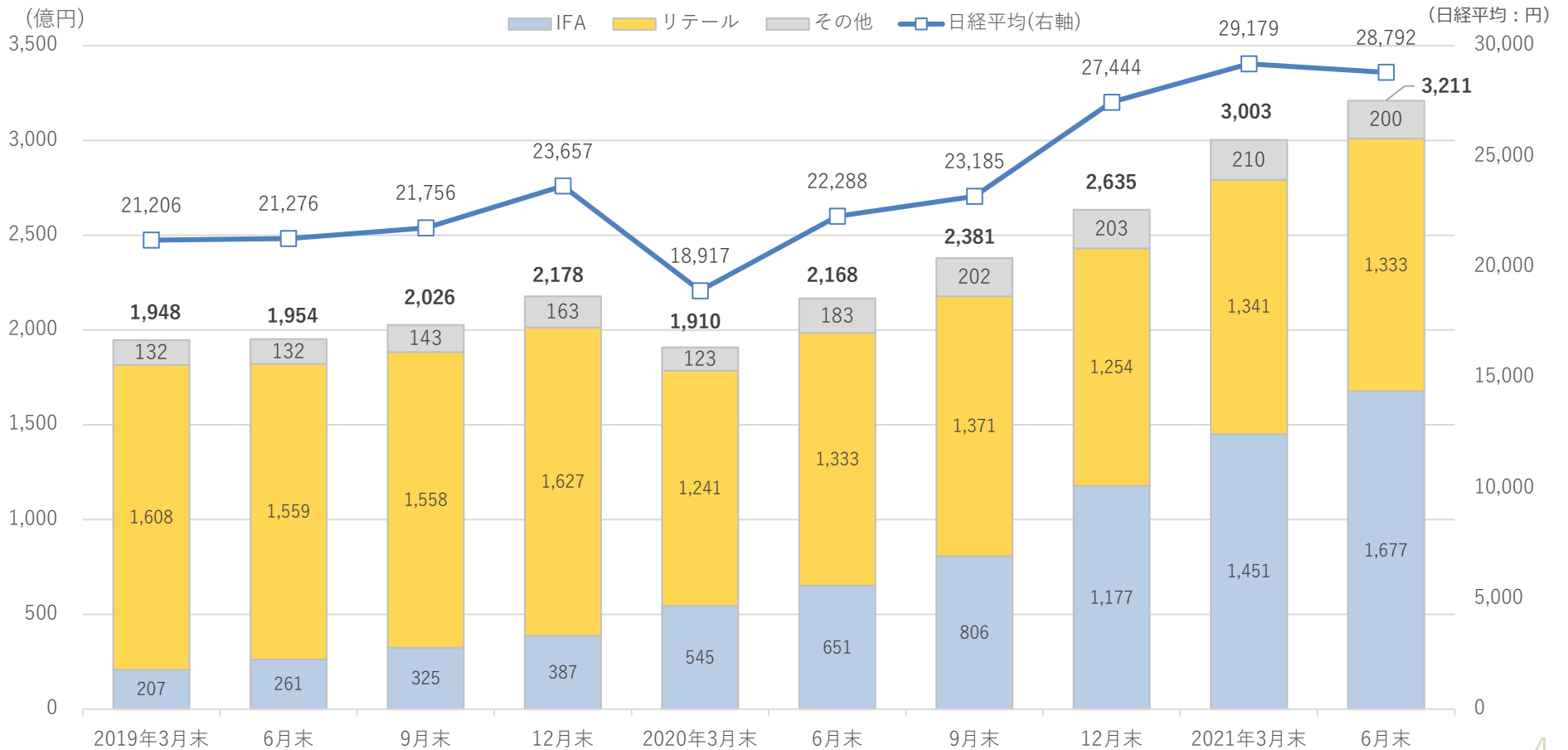
	2021年 3月31日	2021年 6月30日	増減
流動負債	37,248	43,178	+5,930
預り金	12,812	17,222	+4,410
短期借入金*	12,728	14,728	+1,999
固定負債	10,596	11,358	+761
長期借入金	7,850	8,249	+398
純資産	13,792	13,799	+7
株主資本	13,768	13,775	+7
負債・純資産	61,660	68,359	+6,699

* 短期借入金、1年内返済予定の借入金の合計

3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ・トレードサイエンス>

▶ 金融商品仲介（IFA）ビジネスの拡大に伴い、2021年6月末の預り資産残高は3,211億円、うちIFA部門は1,677億円と増加

預り資産の四半期推移



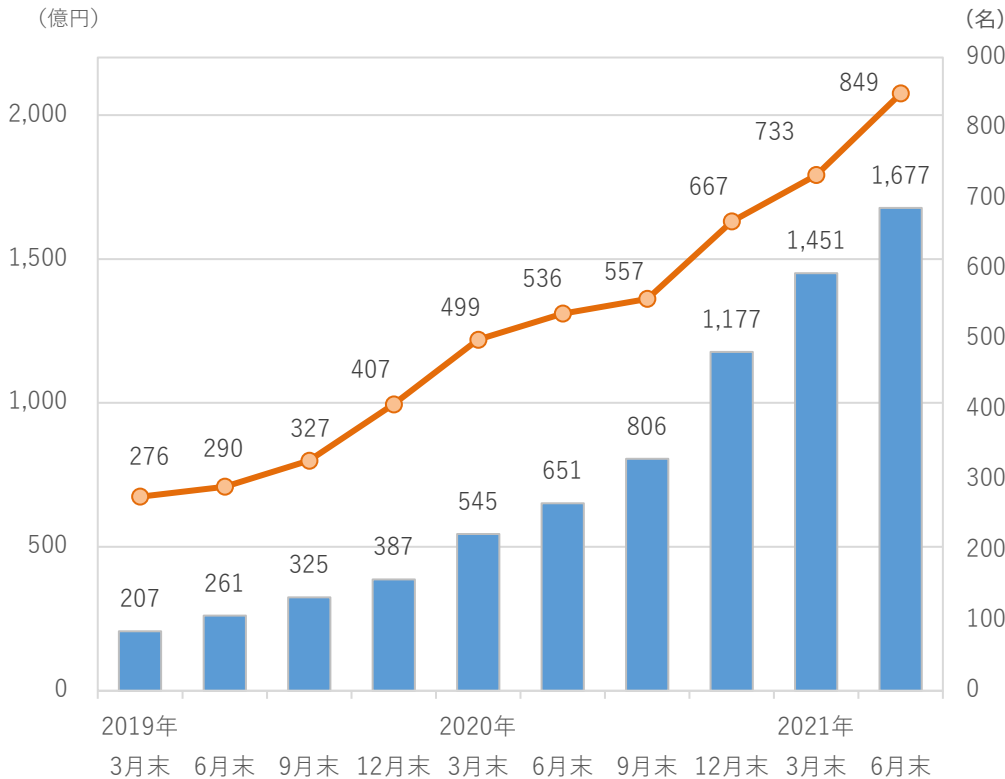
注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっています。

3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ・トレードサイエンス>

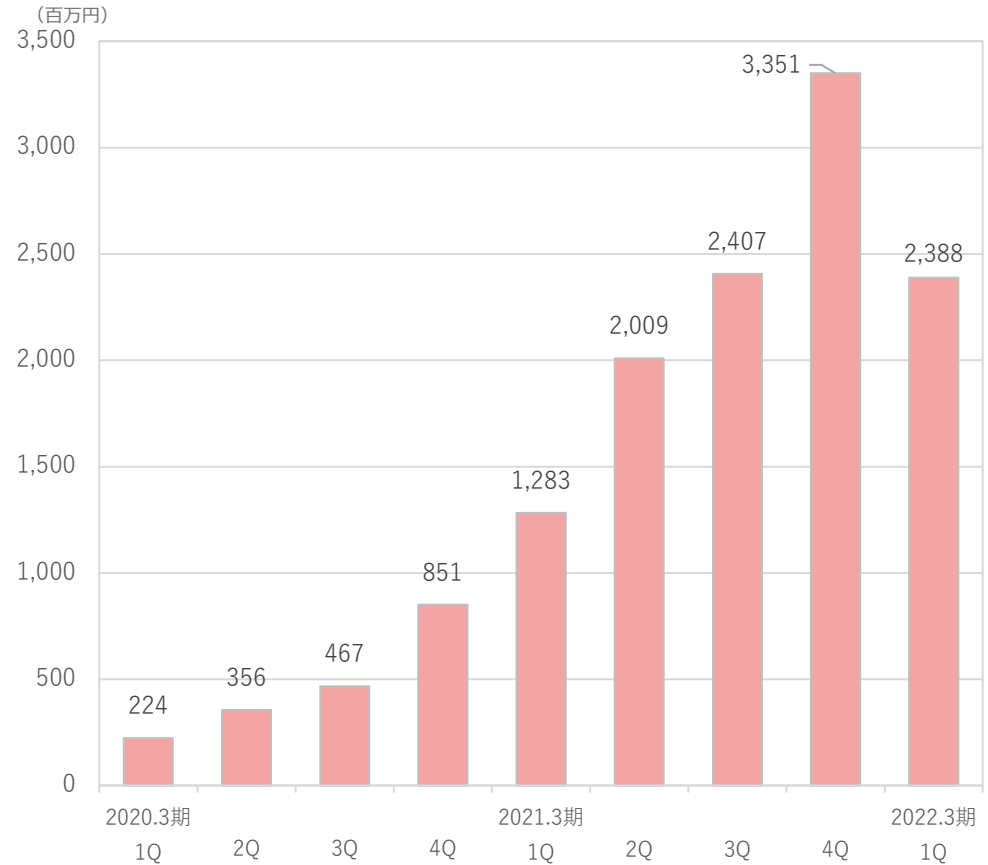
- ▶ IFA部門の預り資産は1,677億円、契約仲介業者外務員数は849人に拡大
- ▶ IFA部門の営業収益は当四半期（2021年4～6月）で2,388百万円

IFA部門の預り資産残高・契約外務員数の推移

■ IFA部門預り資産 ● 契約外務員数（右軸）



IFA部門の営業収益の推移

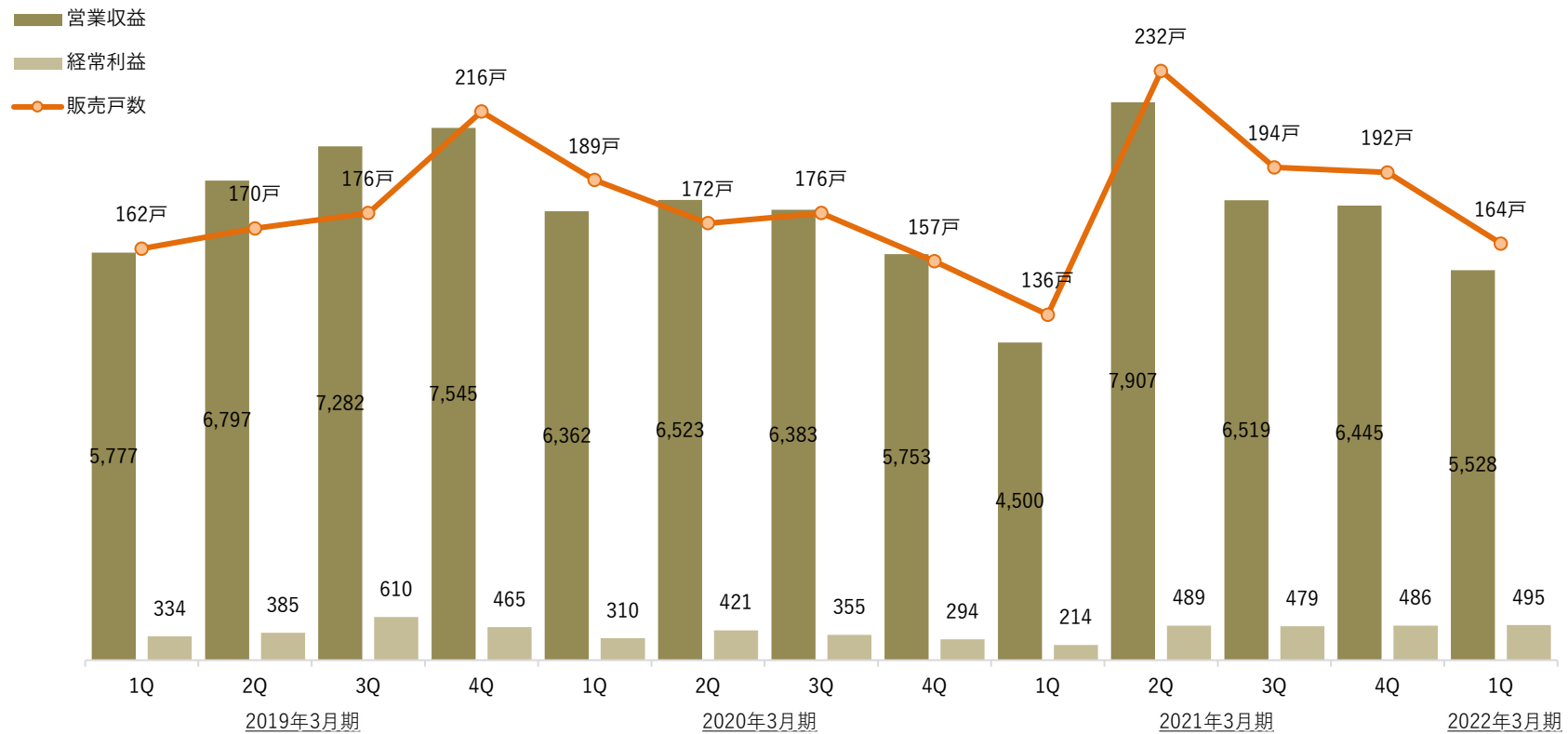


注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっています。

3-②. 不動産セグメント <マイプレイス>

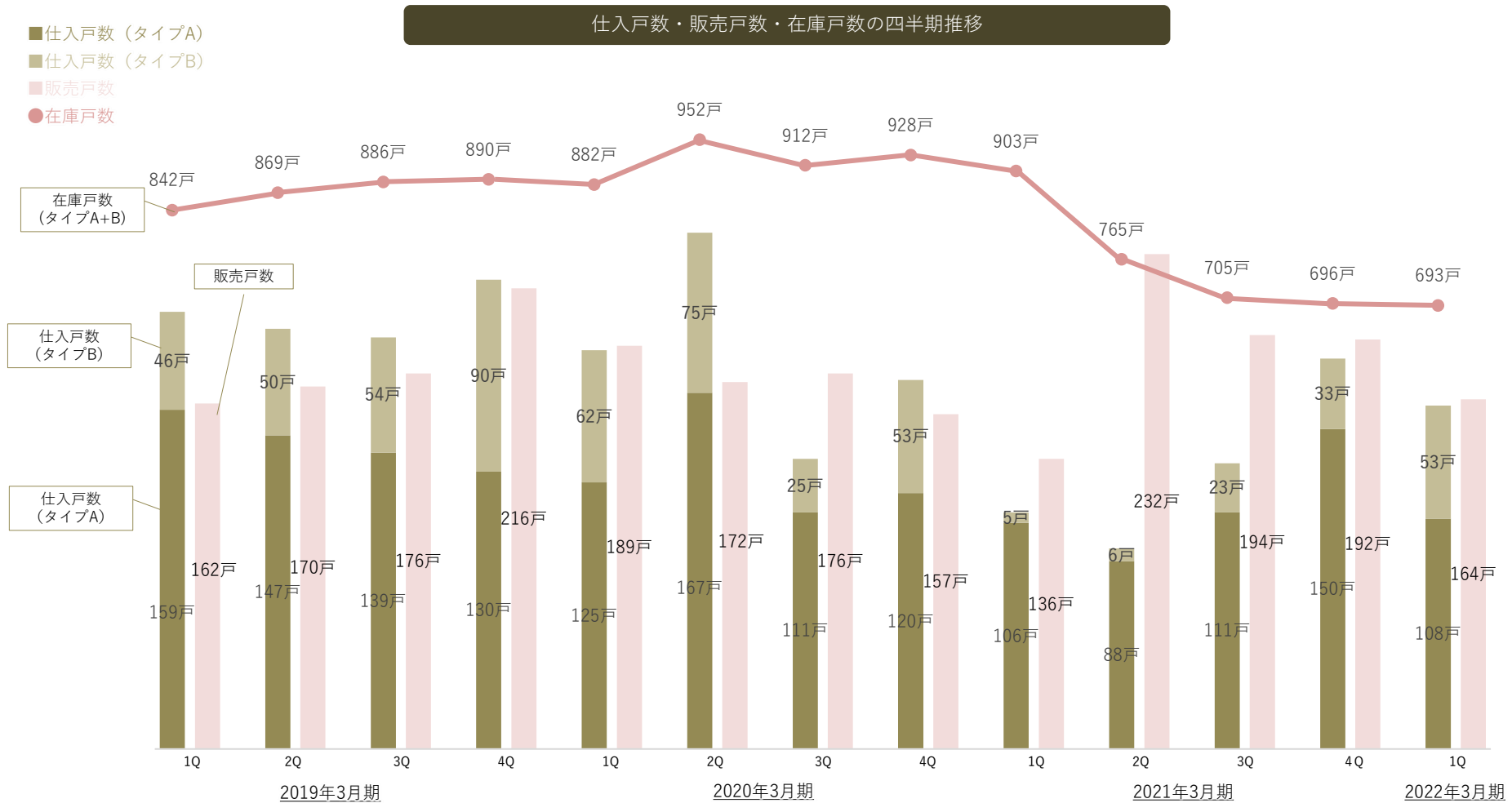
▶ 中古マンションの再販は、首都圏の堅調なマーケット環境のもと、安定的な利益維持

営業収益・経常利益・販売戸数の四半期推移



3-②. 不動産セグメント <マイプレイス>

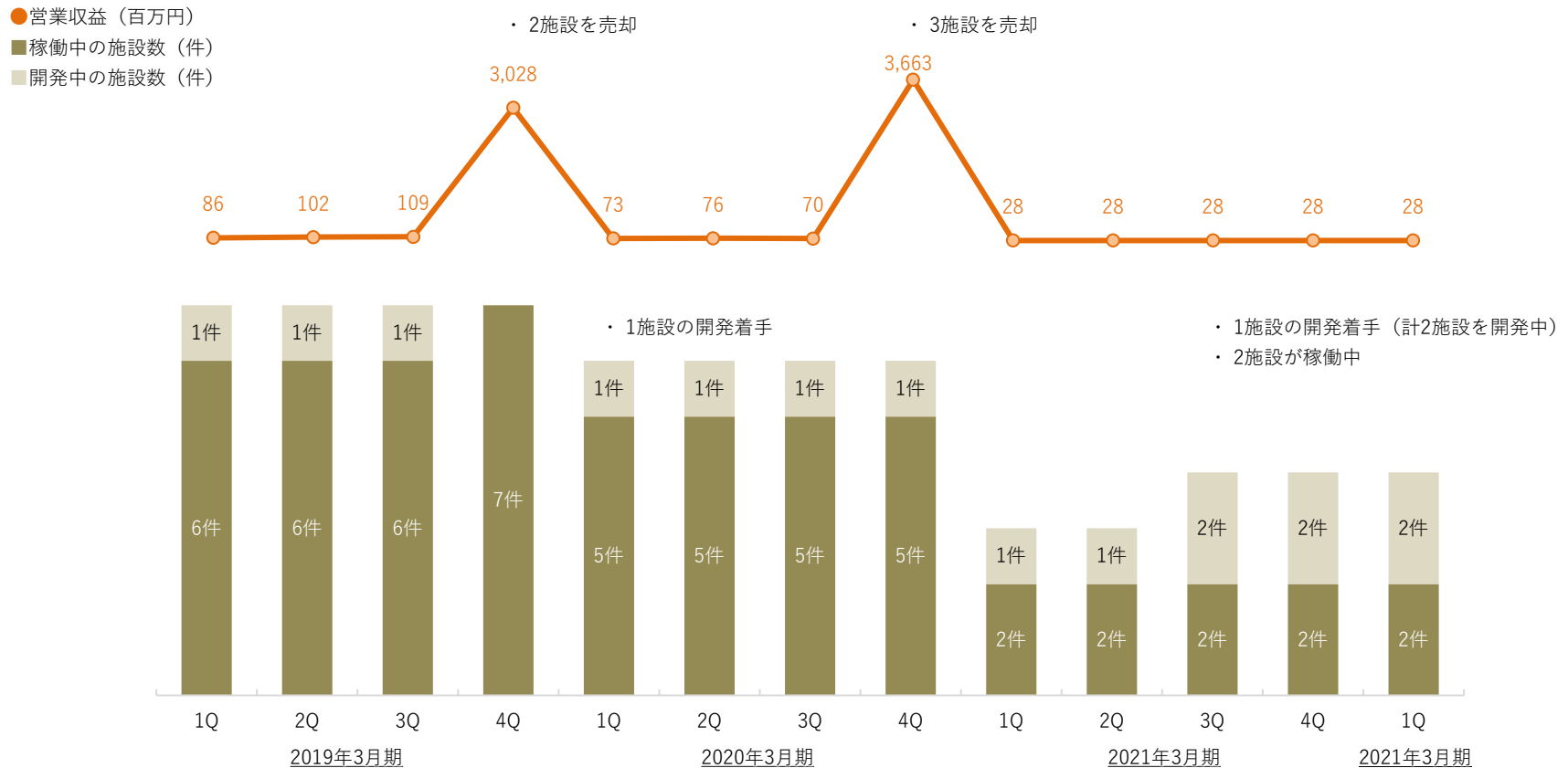
- ▶ 中古マンションの仕入は、コロナ禍での慎重な仕入決済基準を維持
- ▶ 販売が堅調な中、在庫戸数は微減



3-③. 不動産セグメント <EWアセットマネジメント>

- ▶ 新たに熊本市にて介護付き高齢者施設の開発に着手。京都市伏見区にて新たに開発予定（2022年3月期中に着工予定）。
- ▶ 稼働施設の売却は2022年3月期以降に実施予定。

営業収益・稼働施設数・開発施設数の四半期推移



注) 営業収益は、稼働施設運営会社からの賃貸料収入と施設売却時の売却高の合計
2020年3月期4Qの営業収益には、特別利益に計上した1施設の売却利益941百万円を含めて表示

4. 2022年3月期業績予想

- ▶ 新型コロナウイルスの感染拡大と対応する金融政策等の動向が、市況のボラティリティを大きくしており、特に証券セグメントへの影響が懸念され、事業基盤の拡大による効果を相当程度に打ち消す可能性があるとの認識。
- ▶ 一方で、不動産セグメントにおいては好調な業績を維持することを見込む。

	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	税金等調整前 当期純利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する当期純利益 (百万円)
2022年3月期 業績予想	42,200	2,800	2,500	2,500	1,600
2021年3月期 実績	39,090	2,590	2,218	2,215	1,430
増減率 (%)	8.0%	8.1%	12.7%	12.9%	11.8%

注) 税金等調整前当期純利益は、連結業績予想として開示していません。本決算説明資料においては参考値として記載しています。

5. 配当予想

【株主還元に関する考え】

- ▶ 2019年3月期より、財務の安定と事業資金の確保に支障をきたさない限りにおいて、DOE（純資産配当率）は少なくとも4%以上の水準を維持し、ROE（自己資本利益率）が4%を上回る場合には、その部分の利益についても株主還元の原資とし、その一部を追加の株主還元に充当する方針です。
- ▶ 2022年3月期は通期で19.0円（中間配当9.5円、期末配当9.5円、DOE4.2%）を予定します。

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
中間配当	10.0円	10.0円	9.0円	8.5円	9.5円
期末配当	10.0円	8.0円	11.0円	9.5円	9.5円
年間配当	20.0円	18.0円	20.0円	18.0円	19.0円
DOE (%)	3.9%	4.0%	4.8%	4.1%	4.2%
ROE (%)	18.4%	8.9%	11.0%	10.5%	11.3%
配当性向 (%)	21.5%	45.2%	43.1%	39.0%	36.8%

注) 2022年3月期の配当・DOE・ROE・配当性向はいずれも現時点での予想値を記載しており、2022年3月までの業況により実際は異なる可能性があります
 DOEは1株当たり年間配当を期首と期末の1株当たり連結純資産の平均値で除して算定
 ROEは親会社株主利益を期首と期末の自己資本の平均値で除して算定
 配当性向は1株当たり年間配当を1株当たり当期純利益で除して算定

免責事項

本資料に記載されている予想・見通しは、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

本資料に記載されたデータには、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した公開情報の引用が含まれておりますが、当社がその内容の正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。